

歴史を今に伝えて

115

みなみおつかすがわら
南大塚菅原神社本殿・拝殿
付建地割図一点造菅関係文書二点万延元年棟札一枚

社伝によれば南北朝期の創建で、慶長十一年(一六〇六)、この地を開発した藤倉大膳が信仰したと伝わっています。江戸時代中期には、西福寺が別当を務めていました。

本殿は小型の一間社流造です。屋根は木瓦葺で、千鳥破風・軒唐破風を付けています。身舎の組み方は複雑で、彫刻を多用しています。しかし、江戸時代末期に川越に流行した、江戸彫をふんだんに用いて壁一面に彫刻をはめ込むようなことはしていません。

また、本殿の前に入母屋造、棧瓦葺の拝殿があります。これも本殿と同時期の造営です。拝殿と本殿とは反橋で結ばれ、連続する空間を形成するという珍しい社殿構成になっています。



菅原神社本殿

この神社には建地割図一枚と、「天満宮御普請着帳」「天

満宮木割覚帳」の造営関係文書二点が残されています。これらの史料から、現本殿は万延元年(一八六〇)四月の造営で、地元の大工・瀧嶋秀五郎の手によるものとわかりま

す。棟札も残され、造営関係史料が豊富に残っていることから貴重な建物といえます。

TV わが街川越 番組ガイド

どんぐり

編集後記

電化から20年、川越線を走り続けた緑色の電車(103系電車)が引退。過ぎ行く夏を惜しむように真夏日となった10月2日、記念列車の出発式が行われました。最後の運行となる記念のヘッドマークを付けた姿を写真や映像に残そうと、多くの鉄道ファンが川越駅や小ヶ谷の鉄橋付近でカメラの列を作っていました▶40年ほど前、川越線にはまだ蒸気機関車が走っていました。当時は中学生でしたが、大宮駅まで行く途中に荒川の鉄橋でドアのない客車の乗降口から下をのぞき、たいへん怖かった思い出があります。その話や川越駅脇の踏み切りに遮断機を下ろす人がいたという話を子どもにしたところ、遠い昔話のように聞いていました▶川越まつり・さんばくなど取材する行事が多い、この時期。でも、まちの話題も広報には欠かせません。市民の皆さんが楽しく読める情報をお持ちの方は、お知らせください。



軒端揃いの様子(元町2丁目)

川越まつりを盛り上げる! 盛り上がる!
「川越まつり」に向け、活気づいていく川越のまち。その様子を追いかけていきます。また、ことし二月、国の重要無形民俗文化財に指定された「川越氷川祭の山車行事」にちなみ、山車行事について紹介します。

テレビ埼玉(38ch) 毎月第1・第3土曜日とその翌日の日曜日に放映

11月5日(土)/午前9時30分~9時40分

11月6日(日)/午後5時30分~5時40分

川越ケーブルテレビ(15ch)

11月5日(土)~18日(金)

午前9時20分~・午後0時45分~・午後4時20分~・午後5時45分~・

午後8時45分~(金~日曜日)・午後10時50分~(月~木曜日)

テプコケーブルテレビ(9ch)

11月21日(月)~27日(日)

午前6時30分~・午後0時30分~・午後4時30分~・午後7時30分~・午後9時30分~

*変更になることがあります。あらかじめご了承ください。